

思いやりを持って

砂川市立砂川中学校 2 年 山本 千尋

昨年十月から、消費税が八パーセントから十パーセントに引き上げられた。あなたはこの消費税増税についてどう思っただろうか。賛成の人もいれば、前の方が良かったと、不満に思う人もいるかもしれない。実際に、社会の中心である政治家の人達でも賛否両論、意見が分かれているのだ。この増税をきっかけに、私は税が社会にどのような影響を与え、どのような良い効果をもたらしているのか知りたくなった。

私達があまり税について明確に知らないのは、税が目で見ることのできない、複雑なものだからだろう。しかし、税は日常生活のどこにでもある、人々にとってとても大切なものだ。私がいつも行っている学校は、税金で建てられ、教科書や椅子などのものや、学校で使う電気や水道などの料金は全て税金だ。街を歩けばパトロールをしている警察官がいて、その人たちの収入も、税金で賄っている。災害があった時の復興費用や高齢者の老後の暮らしをサポートしているのも税だ。このように考えると、いつも生活している日常のほとんどが税と関わっているといえる。今までは少し気が引けていた消費税増税も、自分が少しでも社会の役に立てているような実感が持てた。

しかし、税には沢山の問題もある。日本では今、少子高齢化が進んでおり、税金を納める若者が少なくなっているという課題がある。自分にはほとんど関係ないと思っていたものだが、本当にそうだろうか。未来をつくっていく私達にとって、とても重要で、知っておかなければならない問題だ。あと十年もすれば、私は納税者になるということを感じると、一気に自分と税が引き付けられたような気がした。

では、今自分にできることと言えばどんなことだろう。税には所得税や、市民税、法人税などの様々な種類があるが、十代の頃から出来ることと言えばほとんどない。中学生のうちにはまず、根本的な部分から知っていく事で、将来、税を納める時でも積極的に納税することが出来ると感じた。今のうちから税について沢山の関心と興味を持っていきたい。それが私に今まさに出来る最大の社会貢献だと思うから。

このように、税とは子供などの若い世代から高齢者の暮らしのためなど幅広い世代に役立っている。そして納税は、教育、勤労に続く国民の三大義務でもあるとても大切なことだ。確かに税は、納めたとしてもその税がどこに使われているかはっきりは分からないかもしれない。しかし、たとえそれが自分の知らない遠くの誰かだったとしても、その一人が私の行動によって少しでも助けられている。そんな「思いやり」の心を沢山の人が常に持つことで、日本の未来がより良く、明るいものになっていくのだと思う。